

排水・廃棄物および化学物質管理

基本的な考え方

ニチレイグループでは、環境への取組みとしてグループ環境方針を定めており、「持続可能な資源循環の推進」をテーマに掲げています。当社グループでは、企業の事業活動が自然環境に及ぼす影響は大きいことを認識しています。事業活動を通じた汚染物質の排出や化学物質の使用が大気や土壌に影響を与えたり、事業活動の拡大により、廃棄物の発生も増加し、有限な資源に影響を及ぼします。特に、グループの事業は原材料調達において自然生態系に大きく依存しており、それらが損なわれることは事業上大きなリスクになるとともに、食品廃棄物の発生は大きな課題です。

上記の課題認識にもとづき、当社グループは、取引先やパートナー企業、さらには消費者の皆さまの協力を得ながら、有限な地球資源を効率的に利用していくとともに、事業活動を通じて廃棄物や汚染物質の軽減、資源の再利用、リサイクルを推進します。また、再生資源の購入や仕組みづくりに取り組み、循環型社会システムの構築に貢献します。

グループ環境中期目標として、食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上を維持するとともに、国内食品工場では動植物性残渣の削減を目標としています。

[ニチレイグループの環境保全への考え方 \(https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/concept.html\)](https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/concept.html)

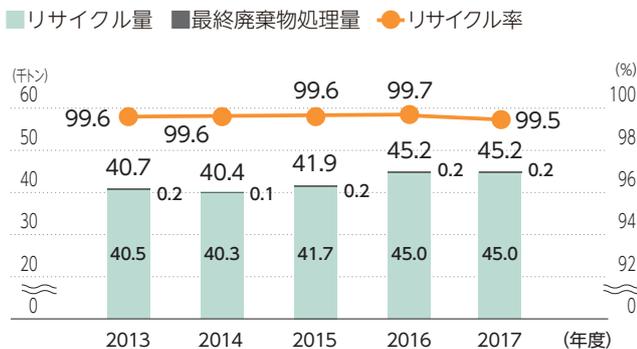
マネジメント体制

[環境マネジメント体制 \(https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/system.html\)](https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/system.html)

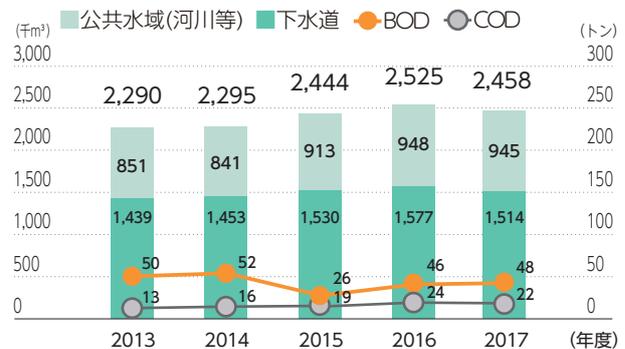
2017年度の実績

2017年度の事業所外排出量は45.2千トンとなり、リサイクル率は99.5%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。2017年度の特別管理産業廃棄物(危険性や有害性などで産業廃棄物と区分けされる「燃えやすい廃油」や「強酸・強アルカリ」等)の排出量は9kgです。

● ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



● ニチレイグループ排水量と排水負荷量



■ 飼料・肥料を積極的に再生し、「循環型農畜産業」を推進

工場や食品素材の生産現場で排出される食品残さや鶏ふんなどを、飼料や肥料に再生すれば、廃棄物を削減し、資源として有効活用できます。しかし、そのためには、再資源化された飼料・肥料が実際に使われることが必要です。

当社グループは、食物から再資源化した飼料・肥料を使って食物を生産し、これを人間や家畜が食べる循環サイクルの確立を目指しています。純国産鶏種「純和鶏」の養鶏場として設立した(株)ニチレイフレッシュファームでは、地域の方と連携を図りながら、鶏ふんを活用した地域循環型の生産体制の構築に取り組んでいます。

■ 『純和鶏』を通じた循環型生産プロジェクト

(株)ニチレイフレッシュファーム洋野農場では、『純和鶏』の鶏ふんを有機質肥料に加工し、『純和鶏』の飼料となる飼料米の田んぼに活用しています。JA新しいわてや、岩手県軽米町と洋野町、そして協力農家の方が飼料米を生産。水田の多くは、米の生産調整により生まれた休耕田を活用したものです。『純和鶏』から始まる循環型の生産サイクルは、地域農業の再生に持続的に貢献します。

[『純和鶏』を通じた循環型生産プロジェクト \(https://www.nichireifresh.co.jp/product/livestock/detail/?id=347\)](https://www.nichireifresh.co.jp/product/livestock/detail/?id=347)

■ 工程残さ(残リカス)を利用して作る肥料・飼料

ニチレイフーズは、生産工程における廃棄物排出削減を目指し、さまざまな取組みを行っています。生産工場における徹底した生産管理や、各工程で起こるトラブルを未然に防ぐ取組みを推進するとともに、それでも製品にならなかった原材料など工程残さのリサイクルを行っています。

船橋工場、白石工場では、工程残さを工場内に設置した処理機で処理し、肥料や飼料にリサイクルしています。その他の工場でも、リサイクル業者に委託して肥料や飼料として工程残さを有効に活用しています。今後も数値目標を設けて積極的に廃棄物排出削減に取り組むと同時に、やむを得ず発生する工程残さについては、最大限の有効活用を目指していきます。

■ 工場排水は専用設備で浄化後に排出

食品工場で使用した水は、食品系の有機物や洗浄剤、殺菌剤などを含んだ排水となります。当社グループでは、工場排水を処理設備で浄化し、法令で定められた排出基準を遵守した上で工場外に排出しています。

■ PRTR対象物質の管理

2017年度は、1事業所で冷媒に使用しているクロロジフルオロメタン(R-22)を、1t排出したため、PRTR法*の届出対象(取扱量1t以上)となりました。今後も化学物質の適正管理を継続します。

※PRTR法:人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律。

■ PCBの管理

PCB(ポリ塩化ビフェニール)は、変圧器の絶縁油などに使用されてきましたが、1970年代に毒性が明確になったことで使用が禁止されました。PCB含有を確認した機器については、法に定められた基準に則り、適切に保管しています。現在、国が管理する全国5カ所のPCB処理施設の操業計画にもとづき、順次処理が行われています。2017年度は、当社グループ全体で14基が収集・運搬・処理されました。

■ アスベストへの対応

2005年度の調査において、屋根裏への吹付けなど飛散の可能性がある状態で発見されたアスベストは、除去などの処置を実施しました。また、事業所の閉鎖などにより施設の解体を行う際には、再調査の上、アスベストを含む建材がある場合は、法令を遵守し適切な処置を実施しています。

■ 土壌汚染への対応

土地の売却・購入や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに、必要に応じて土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。

2017年度はニチレイフーズ船橋工場で土壌分析を実施し、土壌汚染の可能性は極めて低いと評価されました。